

◎東京都世田谷区の都立光明特別支援学校で使われている「マイトビー」。右下の画像の赤い印が視線の場所をマイトビーを使う石田竜己君=いずれも武市公孝撮影



パソコン画面に、50音のかなのキ
ーが映っている。前に座る男性が視
線に向ける。すると「こ」の字の上
に赤い点が浮かんだ。ぐるりと点が
一周すると、「こ」という合成音。
これで入力完了だ。

やがて文章が完成した。「こんに
ちは、加藤高明です」

東京都町田市の自宅でウェブ制作
の仕事をしている加藤さん(27)は、
脳性まひで手が思い通りに動かせ
ず、言葉もはっきりとは話せない。
指の代わりに目を使う視線入力装置
「マイトビーP10」は大助かりだ。
自分の指を使うこともあるが「キ
ーを打つより速いですね」。

利用者は他にALSや筋ジストロ
フィーの患者ら。文章作成の他、メ
ール、インターネットなど一通りの
パソコン作業ができる。

その核は、視線の先を追跡する技
術。画面下のセンサー部から赤外線
で目を照らし、その画像をカメラで
撮影。瞳孔の中心と角膜反射点の位
置を解析し、どこを見ているか割り
出す。

「コミュニケーションでは苦労をし
てきた。」僕の話している言葉が分
からないのに、分かったふりを何度
もされました。ペンをうまく持て

思いは視線の先に 指使わず目で文字入力

ず、成長してからはワープロやパソ
コンを使ったが、手が別のキーに触
れてしまう。穴がたたくさんあいたア
クリル板をキーボードの上に置き、
指を入れて入力した。

ウェブ制作者になったのは「スピ
ードが必要な仕事は無理だけど、こ
れなら頑張れば期限に間に合わせら
れる」から。マイトビーは長い文章
やメールを書くのに重宝している。
「もっと早くできていればよかった
のになあ」と思うほどだ。

この技術は90年代から、心理学な
ど大学での研究やマーケティングリ
サーチの分野で使われてきたが、ス
ウェーデンのトビー・テクノロジ
社がマイトビーを06年から販売。10
年春には日本向けの製品が正式に売
り出された。

東京都立光明特別支援学校ではマ
イトビーを使い、重度障害児の認識
能力向上に取り組む。視線に画面が
反応する機能を利用し、その体験を
繰り返すことで、両者の関係が理解
できるようにするのが狙いだ。

小学部6年の石田竜己君(12)が眺
める画面には、アイドルグループ「A
KB48」の4枚の写真。「どれにす
る？」と先生。石田君が1枚を見詰
めると、画面は、ヒット曲「ヘビ
ローテーション」の動画に切り替わ
る。石田君は手を振ってご機嫌。写
真と曲の関係がもう分かっているよ
うだ。傍らには石田君のお母さんも
いて、取材の様子を乗しそつにカメ
ラに収めていた。

お母さんの写真が見たくて、石田
君が視線で「母」という字を選ぶ
—そんな日々があるといい。

